玉燕小摘

九

保氏地徒玉乃をくしゐの巻

宇治

宇治惟巻

ゆるゝあおりきり　二のくゝ　惟喬親王ゆ准擬して出る好るべし。冷泉院乃ゐ栄ゆ好りて。栄りくゝ好たるゝ。怪るゝ行り。又宇治ゆ出ゝ好ゆゝ。かの親王ゆ世ゆ山置ゆこゝ有位ゆ有りしゆ准へる好るべし。蓋ゆ乃らぶひ有り好つゝ。業平好たのある らぶ行り。菟ゝ雅郎ゆ好ゆゝ。ゝゝゆゝ。

ゝぶ行りて　三のゝ　栄ゝぶ行ゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。

ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。ゝゝゝゝ。

[illegible]ふ封へ〳〵解き[illegible]ハるゞ[illegible]ゞ[illegible]ハ上へ限あるし。ことも
[illegible]ゞ下へ限りて。〳〵人とハ[illegible]ふ[illegible]ことを[illegible]
[illegible]〳〵やむ[illegible]ゞ[illegible]　十二のゝ　[illegible]のすし。中[illegible]ハ[illegible]ことし。
[illegible]ゞれ時　九のゝ　或おかれ威勢の時し[illegible]ゞ。この時を時ふあふ。
時をし[illegible]ゞいふ時し。
中ねの[illegible]中〳〵〳〵　十二のゝ　[illegible]ハ[illegible]ゞ[illegible]ゆ〳〵おゞ
〳〵[illegible]ふ。年[illegible]ハ[illegible]てさハ〳〵で父[illegible]をゆ〳〵お
ゞせる〳〵ふし。細流中〳〵[illegible]ゞ[illegible]ゞり。
[illegible]ゞ〳〵[illegible]ゞ[illegible]ゞ[illegible]ゞ

扇うちでうたしてもの月ハまゑきつべうなり　　廿四のひ　　河海の水原の月を学ぶ
ぶくつふ侘わりとうゐ。此侘物ゑ。ま紅びを。後ふま紅きとハ改たつ
ゆるべし。まゐハ次ふへりゆへとぞ。ちてそをゐとゐるふつきて。ま紅びと。
まゐきゆ侘しゆうなく。ひうて。さかしらふ改をつる物とど。扇を以
て月を招ゐるす。ゆるすも何ゐ。よ〜ゆきことなるバ。ゆ〜みゑがてしそのの
ゑ月ゆゐうさ〜ゆるとゐるふも。ま紅くハ。ゆつゐ〜かうぞ。ま紅ふ
ゐからの拳扇喩之といふ。よ〜かゐて。下ふうとも月ふゐゆ紅
ものうゐといつるも。まゐぶふてこそ。よく〜ゆ紅へ。さて〜日ゆうへとゐ
といふ。撥うつきていつるゆゐとバ。ま紅ぶといふ妨ゐ。
まゐ紅ふあゐゐ　　廿五のひ　　第九一度ふいまゐ。いとゐ出ぬふゐや侘ふゐ

るゐ。とつるゐ。ゐ。ゐ〜くのゐあてハ此月のゐふゐ。
舟が舟うちゐん侘る　　廿六のひ　　此月ハ侘ぞ。ゐ紅ゐ。ゐハ帳光て。ゐ紅へ紅
ゐ侘ふていまゐ。ゐのわハゐゐ。蓋ゐ〜。舟といふゐゐゐ。ゐ知
ゐふまゐきふゆゐわふかく。舟ゐとハ中ゐべきふた。ゐ
ゐゐ〜かへ紅ゐ〜　　廿七のひ　　第二百八蓋のゐ侘いわといふ侘ゐ。ゐるといふ侘
ゐうゐづゐるまて。ゐゐ。ゐゐとし。ゐる。ゐるといふまゐ。
かく〜ゐや〜ゐうよづゐぬゐ〜　　廿七のひ　　姫ゐゐちゆゐを。八蓋のゐゐゐるんし。
よづゐねとハ琴ゆゐ。ゐき侘へ。ゐびく〜のゐへゐど。ゐへ。ゐて。ゐゐ。
ゐゐひゐふゐゆゐゐてのゐゐる。ゐひやとハ。人のゐふゐゐゐ。ゐひのゐ
ゐるハ八蓋のゐゐ〜ゐゐれゐのやゐふゐうぬし。ゐゐゐうハ蓋ゐのゐゐ

[illegible]

おまへ[illegible]（十二の巻）　[illegible]の作者[illegible]

が今まで[illegible]　[illegible]

かの作者の[illegible]（十二の巻）　こゝは柏木の[illegible]

[illegible]　弁が柏木の作者をきゝて[illegible]

[illegible]　[illegible]の作者は女三[illegible]

[illegible]　柏木の[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]

[illegible]

[illegible]（日）　[illegible]

[illegible]（十三の巻）　二の君[illegible]

[illegible]

椎が本巻

まいて[illegible]やうは（十の巻）　[illegible]

[illegible]（九の巻）　[illegible]

一[illegible]　[illegible]（日）　[illegible]

中[illegible]　[illegible]

[illegible]　[illegible]

[illegible]（十の巻）　上へ[illegible]

昇進をかくいそむてしいそもふつうにかなるべ
くしうかりふるを　日　山下おどもゆ　ゆるるかるべし
猶ゆゆきゆふ　日　みやこふもまぐへうなる秋を　ゆゆ事ゆふ
とうる侍し　猶ハおりうゆへくゆる
山のえちうきゆちゆるに　十一の巻　おきふぜ山のえを　東ゆ山といふハ
ゆゆ出てとつをゆ山ゆとゆるゆるゆゆ　此和侍　月の出るゆ
東の山より出ふハうぎゆゆ　ゆふ月を　ゆゆ又
月のゆゆて　光のえてそむをゆ　ゆゆといふ　ゆゆハ　ゆゆ
ゆゆて　山のえ　西の山のえし　下ふへゆる時ハ　ゆゆる
なしそえつる　十三の巻　ゆゆゆゆゆゆを　ゆゆ別　ゆめつゆし

むゆ　ゆゆふて　ゆ　十六の巻　ゆゆ山ゆ　ゆゆへの山ゆ　ゆゆ
ゆゆハ　ゆへの山ゆ　ゆゆ　ゆゆりゆ　ゆゆて　ゆゆ
山ゆゆ　ゆゆ　ゆゆを　廿一の巻　ゆゆ　ゆゆの誤
絶ゆ　むゆ山ゆゆ　ゆゆふなん　廿二の巻　きハさゆ誤
ゆゆゆ　ゆ　下句ハ中　ゆふ　ゆゆを　ゆハ　ゆ
古ゆ乃ゆりふ　ゆ　ゆへ　ゆへだ　ゆ　ゆ毎ハ　ゆハ　ゆ
ゆそえ　ゆと乃ゆ　ゆゆ
ゆ　ゆ　ゆ乃ゆ　日　ゆゆゆ次の句　ゆて　ゆ
の　ゆへ　ゆ　ゆ　ゆゆ　ゆゆ
山ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　ゆ　廿四の巻　ゆ　ゆ

何ゝふもつるふちゝがしてゝ　曰　ことよりんあがきゝるめゝふなるやう
をつるとゝつふまで・ゝべゝ女のつるやゝんもちひをいつゝし・ほゝゝ
濕ゝ・ゝゝふゝ・ゝゝふゝゝし・
あわゝがきゝる　曰　大やうゝるし・よゝゝぬんのゝゝしゝつるゝいゝゝきゝるゝゝび
ゝゝ・ゝゝは大やうゝるをゝきゝゝふゝいゝふゝゝそゝつゝも・
ゝゝゝゝふゝゝゝふゝゝゝつゝふゝもゝゝ　曰　男のんの・つゝぶゝゝ・ゝゝゝんゝゝゝ
ぶふゝゝつゝるゝゝもゝよゝやゝゝゝはせんゝゝゝ・ゝゝひゝゝて・ゝゝゝゝせ
ゝんゝきゝゝゝふゝゝて・ゝゝゝゝ

んの物うらゝもとゝ結ふべうそろるうゝ　日　上件のごとく・女のくみじかく・嫉妬ふかく・物ごとて・繁〻物ろるゝ・景ふ多ゝ・白ゑを・そのあゞ〻を・
をたいぐ毎ふ物ひて・そむくて多く物ぐぶゝ・ざれば・結なるゝ・絶のふや
うゝ物ることハ・ゝとし・あゝ〻ゝ・ゝ・ゝ・

抱ぎわくさみしさ　同　さくさくみくさくなるなかにうつるなかにうつるなかにうつる

おいくらまぶつて　はしつ　四みの巻　乗馬姿流のおく〳〵

ら　ひがしの糸ふる〳〵　同　下句今糸ハ父あのもの〳〵俗さ孫だかく保ものをうて

も　まちくもあがくぞこのうさし

いろなりとういふやる　四古の巻　抜きをくを考へべし

うぐまの花の光

みやうがの姿糸　二のひ〳〵　花を流物べし　河海流いだ　机うくまの糸

を名香姿糸ハいふべきふわ〳〵

かくてもへやる　同　へやるハ糸紙張ていつり

ひがしらぶ　同　抜きふ　伊勢糸姿組を引る考ふべし

ふがをきをぶふ〳〵　同　かをきもをぶも引きる糸の縁をていつる組し

ふをのぶるしもよりわかりるを　三のひ〳〵　をハとを侵る好るべし

をさやふあくはびるもう　五姿ひ〳〵　姫ふの中ふの多沢ふぐ〳〵くいふ

ぶ姿〳〵ふさう〳〵ぶちて親ふぐのやうふハいぐちつつひもん〳〵美ふ

乃ふとろう〳〵あぶせうし　但ぐとしるぶつり

いふあぶ〳〵おきつるかうのう　同　いふぶ〳〵侵切べし　姿〳〵ぶれバてふをハう

のたぐさてこれを姫ふのおく人まとおぶ〳〵　捺（オキ）つるふやいぐといつる

なり　但古ふのあぶ〳〵おきて〳〵やうふすもうハしるぶつり

おくよがり　六のひ〳〵　ふふふハなるをもといつる但ハおく〳〵とぶつり

さやうふあもむをて　七の巻〳〵　美ふの中ふをのぐて　さやうふあ

もけて、ゞ結ぐゆゝしとものふべきやうふ婦人のおやをゆるといふし。
をゝる流おもむきを婦人へうきて解きてるハとぐり。
ゆゝと形色結ぐゝなんゝ　十四日　ざゝ形んハ形ふ泪出て、かてを
好とぞ、夫婦のかゝゝひもしゝ結へゝ、とふべれだし。但とぐり。
あそろゝまとぐさまて　十五のひゝ　東も明るなし。ムりをゆふしと
いつるハゝゆゞへり。
ゆ心星ゆゝ　十六のひゝ　そりこ行つをゝいつふ鶏（とり）をこゆうり。そり行
佐先ゝるハあり道好ゝこゝゆし。
行ゝゝあ結ゝつゝむ　十九のゆゝ　ムトかとあゞせゞ形どいふ泪の為ゝる好ゝん。
和ゆゝ出てハ文そのいを。

七月もすゞゞん好ゝて　月　ムト泪。九月ふなりてゆるのおゝく咲れゞる。
下ふ、ゝゞ幸ひ器き保ゞ好をゞゝる行をバ。往八月の四し。徐をゞ也
月をゝとんゝ。ふづんゆくてゝいふをゆ。おゝいゞふゆ。
あゝふ出てハいゝゞゝ　十六のひゝ　ゝふいゞ。おゝゝくいをむりハ。徐ゝバゞ。
業ふのゝをゆゝゆをあゝゝりし。されゞゝふいゞ。ゝゝハいゝ行て。中ふを
行をせん。徐せバ業ふの中ふふ器ひゝうゞゝと思ひゝまゝ。ゆふし。細流
の流をいゝゝきゝゞひし。まちゝる人のわゝんゝ行をバゝゆハふ色ゝまゝ。
まゝきゝ人のおをゞゞ　十八のゆゝ　ゝゝとかくを行つひゆふ父母おゝをゆよ
ふゝりてゝいふゝし。但おをゞゝいふゝゆゝゞ。答ゝる人おゝせ
ゞゝてゝいゝんハ答ゝし。

いふまる和ごぞと　廿六乃ゑ〜　婦人の・氣おが〜おがをし。
ぎふんりもち〜ざわりもち〜　廿七の条〜　こようひく〜美ふめちちづき給ふべきる
のうろをかゆて・ち〜ざりるもあふんゆまばし。　侍医ながこと。
例のおう〜〜う〜　廿八の条〜　さぬふ婦人ち〜そひぶ〜〜給ひ〜時のごく
く例の寒るハなく〜て・乗を昭〜給ふよ〜し。　医ながこと。
何らられたえ〜　日　何らハ上の泪をとがめて・何らハ・ホカのうふ〜〜ぶ〜これ〜〜
の左〜といふ。　何るぞといふ医ハ・さ〜ゆづり。
何ふ人〜〜ち〜〜　廿九のひ〜〜　寒るハなうわ〜ふふいるやうふも・ゆ。
ち〜がう〜おう〜おき・　卅の条〜　おう〜〜ハ・おが〜を誤るし・さて〜こハ・ゑ
の説よろし・古ゑの・ゑを捨ゆるれんふも・ち〜ち　とバ・ち〜ぐ〜ゑ和ふ。

おが〜〜ゑつるよ〜し。　若ちの・ふの・ゑ・いう〜き・ゑ・ご〜し。
いふ〜〜つるるぞ　卅一のひ〜　こ・ち・も・ゑ・ゆ・ゑ・ゑ・ゑ

へも今ゑゞ〜作て みちびき給ふまゝ とかゝるひのふし。
いつ所りるゝとうハ ゑ〜 （廿八のひ〜） とのゝふこと乃二字為るゝ所なるべし。さて又
おゝたかり給りんそ おゝいうわ宗しん おどろきべき給し こゝハ世の人の。
おゝたる宝もゝべく 又姫ゑの みづ〜おゝたり宝てもゝべ〜 ゆづき
ゆてゝと給りんといふ詞そかゝるゝぞ。 注ふ白ゑも 何とうゝゝゝるハゑゞゝし。
おろゝなゝぬゑ〜 （廿六ゑ） 業の詞かて 白ゑ乃ゝるゝ所るゝそ代へゝ。 字注へ
おゝせゝゝる代 おろゝ所〜ぬ仏なゝの仏んぐ〜よゝ。くゆゝぶゝゝるゝし。
注ゝぐゝ 業ゝんの 白ゑへのんぶじをゝて ハ仏ゝろゝ〜ゝいゝ仏の字ふゝるゝぞ
白ゑの字注へおゝをゝゝる代 ゑづくへとハ。るゝぶゝゝる詞るれゝし。
おひつぎかき給ひて （廿五のゑ） きもゝ宿るべ〜 追給ゝ。そのゝゝぐわを追て。

ほゝぐゝゑふ つゝきてかゝ代ゝつゝ。
ゑゝけゝゝ おゝゝ乃ゝ ゑ〜 日 上白ハ 姫ゑゑゝ中ゑゝ 業事ハなゝわ〜ゝバ。
実ふ業ゝゝりゝとハゝゝゝ給ゝぞゝゝゝ。下白ハ給ゝゝぞゝ二和ゝゝゝふゝゝひ
〜ハゝ給ひ〜ゝゝ給ゝバ かゝゝゝゝりハかゝ〜ゝゝぞ記ふゝゝゝ〜ゝぞゝし。 注ゑの
詞りゝ なきゝゝ所り。
人ゝゝゝぞゝゝゝ〜〜きみやづく （廿ゝ乃ひ〜） 字注への縁ゝゝべのゝゝし。さて
そのゝゝ〜ふゝ。ゝりて 中ゑゑゝゝの歌ゝゝをかゝ〜ぶり作ゝんゝゝし。
かゝゝゝいゝゝゝゝゝゝゝゝ 日 日ゝゝゝゝゝゝゝゝ

おすぐれさるがまにてそハ　四十七のひら　あらひ今乗字法へおそをぞそも。
ちやさよわさるがまをみふてをるまバ。ほどけさるがまをバおりゝませといふし。
俗の説り。一すきゝ流ゝ。二すきゝゝゝ。ほどゝゝといふんぞへるり。
注き。いゝゝきえがてし。俗の勢ヒ。をてゝもまるべし。
えがゝゝゝゝゝりてをゝゝ流ふを　四十九の段　をハ。例のとを倡まるし。
いつきさゝゝゝゝむ姫えもゝゝ　五十の段　芸中ふ。やむてをきあの姫えの。
ゝぐりをゝゝもてゝやされ。いつきさゝゝゝゝゝゝむも。こまふさのゝまさ
ゝをてゝゝゝ。ことゝゝのゝをるべゝゝし。ゝひゝゝ。ほがゝさゝのゝゝゝ
ハ。ゝやゝふいつきゝゝる姫えハ。こをゝゝよりほゝひゝゝゝをいゝゝゝゝゝ
ゝゝゝぞゝいふし。　田流をぞふこまゝ。女一ゝの段　ゝて説ゝてゝ。

ほがゝをあしいふを。白ゝの糸とんほらまるよりつ伝し。ほが方さるとハ。
ゝち姫えをゝる人のこをゝのといふてをゝを。又姫ゝを姫えとハいへ
ゝをてなきをや。

ゝ流きぞ付ゝゝ　五十二の段　二のゝ。ほがゝいゝハ白ゝハ。ゝもしぞとハのゝ
まゝぞ。いゝぞ付ゝん。ゝゝきなゝをを。ゝハ。ゝまを。ををゝを。ゝまるを。をるべし。
ゝゝりつゝまてハいとゝふゝ。　五十四の段　ゝふつをてハといゝるゝこハ。ゝ
のやむてゝをき。ゝりゝゝべゝハ。ゝゝ字法ゝハよゝゝがゝぞゝき。ゝゝられバ。
いゝふかゝゝづきゝるゝゝも。限ゝをていゝゝふ。ゝぞりふいえあ
ら孫ぞも。ゝ。ゝのゝまふゝかゝせてハいゝゝふゝゝづきゝゝるをいふし。
ほをひゝゝふるゝぞゝゝ　五十五の段　ゝるのひゝ　ゝゝし。一ゝふゝぞゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝゝ。

和うり給をむんやうきをふる　五十八のひら　三条えへるときはちんやう
をふりあてたおりを給つるを。まづ字法へきり給ふし。恒さがより。
ゆうげ給るまど　五十九のひら　蕎麦の。惣皆つるどけちごくふ。蕎をまぐ
ゆふを。ゆうぎなきうすしくおぐさし。かんけさといるはうれき相の。ろをし。
ふ橋こそそ　六十二のひら　橋ハ。葉はよくゑ紅葉して。さくくてそし。
きハ花。秋ハ紅葉して。さくくてそし。
ふいづくりふ　日　搖きふ。八ふの秋うくを給へふよせるよくいるようし。
さそいづくふう紅どハいたぞしていづくよりといるハけ紅葉のうぎハがく
だりうう紅だ八ふりくよりハえ立て切給ふゃどきふいづくより立て
ゆき給ひくそぞのさし。

ふえくくいんをも　日　岩垣とハ岩のおのづくく垣のかくくもちえどわる
をいふ。ゐを垣のやうふつくくしるしくつるハくどつり。
えおくりるはんをふ　六十三のひら　白玉のはんのうし。白ゐどつり。
かんけの中納言も　日　中玉へ白玉のはんの傍きハ。中玉のかくちち
んぞへあどのよくくもつくぬ石ふやるど。蕎麦も思ひやくを給りんくどづ
くく。婦石のおぐさし。
ふりうへ白ゐ。祢ぐをこがぬくう　六十六のひら　ふくゐ祢ぐけ下ゐくハを
こがくくうけ下ゐ河ふる給るべく。
ふくを給くものぬとふ　六十八のひら　伊勢物語のんを妹をいとりて。うつ
くくふいつるとハ。俗のかくぬがとふいくくへつくゐる。ちひどくし。

けんのうつろひやすきハ　六十九の段　きハさの説し。

ながむるハ　七十七の段　ながむるところハ京も字法も同じ事なれ。

へぐれハ　七十八の段　時雨はさもれぬ。その事なれ。同じ意なれ。

伝えて同じ　えをへぐ　おぐつうたとそうこそ。

ものゝ法を　八十二の段　或おふ。物の事なれ。なりてもし。

ふるとも　八十七の段　こゝはほのかなりてきべし。

ながきゝかを　九十三の段　結きはぎ。結句ハ上文ふかさにきこと

を繁足ものもゝ。ゝつるを更て見べし。けれむ。ゝあむ

歌ものゝ。ゝつるとよりこれを教まむし。白ゝの事法を

中ゝいぶせ　曰　かゝくべてなり。ゝるもよみをもぶうり迫ゝひに

なゞ。物へぐそるを中ゝゝいもし。

ゝ好未を　曰　結きはぎ。

まゝていふ　曰　細流のおゝ。湖月抄説ハ。つんゝいふ説なり。

法もおき物ゝ　九十四の段　おゝつる流のごゝ。

二條院の　九十五の段　一説ハ。云條院のゝつり。今ふふ。次の

老ハ京ゝつり結ゝ。まゝゝ二條院なれども。こゝ次の文を

もて足べこと。ハ云条院ハ。ものゝもべきゝ。もれハ。時ゝも毎ひもふべくゝと

いゝ。二条院ハ。白ゝの文のつゝの文なれば。又安一

ゝの法方ハゝも。二条院ハ。ハ物をまぐきゝ。仕ゝこれゝ

云條院ゝ。次の老ハ中ゝハ。云條院へゝのゝひゝゝ。ものゝ

のたまはし。二条院ふかくをもりたまふと。そのよう聞いつべきふまるともいまだ
二条院うへ御方のみよりおるハ狂うとぞつ。

百歳老

うるはしうそうこう　二のひと　つゆをもとめぬハ。年ごろなつかしうるむかしを。
もとれぬよりし。はをもとめぬくとなるほハとぞつ。
のこりのうぐいす　みのひと　人ふのこうていそぬことなりぎふおぼして。そ語う
うひしうまふし。
いそせはもりはうこう　ちはひと　搖き水。花ちふいそせはもりはうこう
しるたちなくとのこまつるを。考へもしまつるまふいひて　か紫八乃
はをおるいつくにおくきそ。あれ高まるといふうをりて。そのうこうふ

伊行釋云。高くいうこの方ハ。とぞふ伊海ふ。奥入
のんふ不叶。とうはしバ。考へもつされるあるなりべし。
ものをバ。ぐ。　十はひと　伊海ふ引きる。今ぞ。ものハ。さふ。ものハ
ぞ。引ものあるあふ。きべ。きものぞ。きでハ。ものはと。ものはいひぐる
はどぞ。ものろふいんぐ。世里をバ。れど。ものハふ。ふ。はどぞも。ちら
くくのまふふつまてハ。又。うれ。もまて。さまぐ。ものひぐぞも。はは

かなつるよう。ぞいひ。又一ないをもはもはるようふつきて。云はるいを
しのあり。はものをりていよ。こうふうはるようにへもぐいづもはものを
もこてふハクはもぞ。はあ別ふうはるものをべし。花ものふちとかるひしる
ものはし。このまつるぐ。又うはるふハの方ハもぞふ伊海ふ。奥入
伊行釋云。高くいうこの方ハ。とぞふ伊海ふ。奥入
のんふ不叶。とうはしバ。考へもつされるあるなりべし。按之此両首。狂今
ものをバ。ぐ。　十はひと　伊海ふ引きる。今ぞ。ものハ。さふ。ものハ
ぞ。引ものあるあふ。きべ。きものぞ。きでハ。ものはと。ものはいひぐる
はどぞ。ものろふいんぐ。世里をバ。れど。ものハふ。ふ。はどぞも。ちら
くくのまふふつまてハ。又。うれ。もまて。さまぐ。ものひぐぞも。はは

永しのあふし、葉の敏と近き所へうつり侍らんハ、るのもしくうれ
しきことなりけるよしし、みぞれ侍てとハいうくくと思ひて、思ひまどはる
ぬよしし、ほどもなくさぐうの侍らぬ。

廿五日 ふる人も、中ゐみづうめすし、二の日、花の風ふ
みぞうくふよせて、こぞうくんのまゝにまゐうひうふうし、ふる人もつるま
じくといひをしるかそわしび。

廿六日 神無月しうう日 おのゞをくへる長谷川、常雄がいとく、此ゐハ長の思
ふんを、きりはしくふよりあるふをつうしび、中ゐの、婦ゐはしるの侍ゆ、又
宇佐の里を別れんくゐ、こゝ侍らくおゞせるを、おゞくゐんとめ
ふよあれるしまて、神無月ハ婦ゐ、梅ハ中ゐをとくへるふて婦ゐ

の大切ふおゞせ、ほんゐ月はは中ゐといふとし、二三の日ハ婦ゐハ、ゐを侍
ひしうゞとも、中ゐハ、きしふうしび、ゐひうふてなうくまゐよりなり。
四の日ハ、此家ゐううつり侍ふるし、二三の日より、四の日へ、引つゞきてんに
ゐし、侍日ハうつり侍ふるんゐのやどる、伊ゐハ、ケ里ふおく侍ることつるし
いつるふて、やをやをはをし、一そはをハ婦ゐのたかふおるし、中ゐ
の、をしふうしゐはをふて、うつると侍ふるれど、ゐをゐども、ケ宇佐の里
ふ異侍ることやをたうし、ゞ日ゞくおゞせし、おゞくさゐふつるなり。
法の河うし、又ゐ猫うやうふてなんゐくいつるも、ををふて、女へぬ
侍をのゞひうくてくいつるも、ゐれうれしきんをバからていをゞくゞ
中ゐのゐを、おゞくさんうるうし、をいつるうし、をふて、やゞや

[illegible]

かゝるもかへゝきる波　十二の夕

下文ふそぎまそゝゝまバ　ゆゝしひの極さゝ

うつまるふとゝゝゝし　ちぎ危ゝゝ　海ちきをや

かの屋ゝいるもとハゝまどゝゝ　十三の夕　朔月のかの京ハ　ゆゝゝ

身代おぎんゝゝ　こまハ舟への色ゝハゝゝ　ゝゝ舟ゝ方ゝ月を

別ふむゝゝゝゝふゝゝ　結ゝゝ

ゝ　十四の夕　三の月ちと明んやハのゝゝ　古今集の思ふ

ゝとこふゝゝゝゝゝもの明きやゝゝ　ゝゝ　月　格のゝれやし

ゝ　十五の夕　あの月もゝゝ　明ゝバ　ゝも今山星波出て

ゆゝまゝゝ　明ゝ　京ふゝゝゝゝゝゝ　又山星ふゝゝゝ

東明りゝんゝ　ゝのやふゝゝ　おゝせゝし　海の波ゝゝゝ　ゝ　波ゝゝ

ゝゝかゝゝゝゝゝ

ゝゝゝゝゝ　月　白ゝふ波ゝゝゝ　今ハかゝ　京ふゝゝ　ふ　後ふん　捨ら

ゝて　ゝ　ゝ　又ゝ　ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

波ゝのゝる　ゝ

ゝ　十七の夕　海抄百楽の引ゝ　ゝ　明ゝ　格ゝふ

いるゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ

ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

ても、字治のうすをもひいで〳〵、さしの、べづゝゆく〳〵ちゝて、ひつゝまと
ぶらゝ〳〵おそ〳〵侍る。とのゝまふし。上ゝ、茅ゝうりゝるゝちゝとゝひ、下に、
ぐふおゝせまゝ〳〵ゝバ、〳〵いつるゝぐゝをもてゝあるべし。侍従いゝうゝきゝゝがゝゝし。
ひげゝゝまゝハをこがまゝ〳〵きゝゝ　十九のひゝ　まゝゝと中ゝ悪ゝと、ひゝまりゝあゝ〳〵〳〵
結りんハ、人の思りんゝゝろゝも、ゝゝゝまゝゝゝハ、をこゞゞ〳〵やひゝんと思へども、
とのゝまふし。侍従とゞゝ、まゝゝをゝゝがひゝふ侍る。次の文ゝ行を
ゞ、ゝゝハ結ゝハあゝゞ。

宿木巻

きゝ〳〵ゝ悪ゝうゝひゝゝ　二のゝ　下のてゝも　清べきゝ、搭きゝふゝゝ
〳〵いつるゞゞ〳〵。うゝひゝゝてゝゝハ、合ゝゝよゝ〳〵うゝひゝるゝとゝふし。

なゝふをゝハ、ゝどの結いゝる　三のゝ　をハ、どの侍し。十のゝ　ゝ、ひゝんん
とのゝまふし。まゝゝのゝ、ゝゝりがゝきゝゝふゝ〳〵のゝゝゝふし。　行をゝハ、ゝてゝ。
ゝし〳〵。侍従ハゝひゝゞ〳〵し。
ゝゞゞ〳〵ふゝゝ〳〵　月　ゝゝのゝ、ゝをゝゝゝべきゝゝゝゝゞゞゝふゝし。
ゝ五ゝ　ゝゝふゝゝゞゞ〳〵　月　下ゝ、上ゝふゝゝゝの、ゝゝ、うゝひゝゝて、ゝゝゝゝゝといい
ゝゝることし。うゝひゝざゝゝゝて、うゝひゝるゝゝの又一ゞし。
やゞゝ、ゝゝゝゝゝゝゝゝハ　十のひゝ　或ゝふゝむゝ〳〵ゝゝゝゝゞ〳〵ゝ
てゝゝゝゝ〳〵ゝ山ゝふゝ〳〵ゝゝてゝあゝんゝゝハゝゝ、ゝいゝるゝゝゝ。
湖月抄説侍従、ひゝゞ〳〵し。
ゝゝゞゞ〳〵ゝゞゞ〳〵ゝふゝゝ　十六のゝ　必ゝ引ゝゝべきゝ。

さゝばいうぐハ結るべうゝむゝ　十七のゑ　御ゝばいう結る方ふ居ゆうんゝあぐ
〳〵先さぞ〳〵ふし。さて蓋ふ乃ゝゝへふゝがやう結る物ゆる人あぐふお
意なるやさゝ所ハ小おもて結ぐのゝくまゝるゝゝろぞり〳〵ゝのゝゐへ
ふし。什差の使ゝゝ結ぐ〳〵。下上ゝゝうちゝへゝてん結べ〳〵。
ゐひゝ〳〵ゆるんゝもゝふなゝゝて　廿一のゑ　山星ふ位ゝゝり〳〵ほどハ。芳年と
ゐひゝゝべゝ〳〵。芳ゝゝきよりハ位ゝゝ〳〵ゝも。ゐつぐゝり〳〵。今芳年ふ出
てぞ。かの山星ゝゝ結ゝよかゝゝり〳〵ゝゝと。ゐるゝゝ。細流の位ハ。ゝゝくゝ
ゝゐぐゝり。
ぐふ什芳ゝ　廿九のゑ　ぐふとハ。白ゑ乃。後の芳ゝを繋り結ふをゝうきてし。
結ゝゝきはんゝゝゝ〳〵ぬべゝれぐ　日　ぐハ。どの位し。ぐふてハ。ゝゝぞ。

あをゝ結べ〳〵ゝゝ　廿一のひゝ　下白。白ゑのゝゝふあきゐゝゝて。ゝゝり結ゝ
ゐぐゝりなゝゝんゝと。所ゑの白ゑのゐんをあぐゝゝり結ゝ。あぐせるし。
ゝゝりふ結ゝゝ〳〵結ひて　廿二のひゝ　結ひてを。結きふ。結をぐゝゝとへまぐ。
こまハゝゝりふ結ぐまと結〳〵なゝゝ〳〵結ひてのを結るべし。
ゝゝ〳〵ゝふゝ又ぐふ。結ゝ結ゝまゝゝ　廿三のひゝ　結きふ。六帖才宗。祢山のゝ
をゝゝ結ゝ乃ほゝゝぎゝ悔〳〵くゝぐふ。祢をのゝぞ結く。ぐふゝ〳〵ゝる
所。此ゝ所ふゝゝ。
結ゝ〳〵ゝゝゝゝ結ゝ乃ゝゝ　廿八のひゝ　ゝゝぐ行るべし。
ゝゝてゝさきふ結ぐ　廿九のゑ　結きふ。六帖ゝ。人ゝゝハゝゝてゝきゝふゝ。
細流ふ什ゐゝぐ人ゝれぐゝゝ引ゝゝハ。ゝゝり。什ゝゝゝゝふ。

即云牡丹とて引きてうゑ、細白一本ふハ、人うれど、一なるハ、人よりハとゝ
細流りハ、本出をもゝ人ぞ、花多き侍ぞ、花多き侍ぞ、花多き侍ぞ、
うみうまとやうゝ　牽牛花の白おもてハ、これだうりて、香ばりのうかハ、
うゝ下ふ白く色しる細し、枝葉糸雜毒花、ちゝて、茎ちゝふなる
樹をもゝ、ゝハうりぞ枝うりのうれる、河内を考ふべし、これハ表ハ色ぞ
うりて、下ふこゝ、ばうりのうゝ、ゝふよりゝ、ふよりゝ、
そゞろさむく花の夢をもて、ひとゝびて　あさがほのひゝ　ひづふ花の夢ともて
あゝびゝふやどのうゝをゝふ、そゞろきたやうふおぼをよりゝ、ゝて、ゝ人の、
ふいゝゝたゝぶ、むぎふ、ちり、ゝハぬこゝ、いつゝし、えんふとよゝ切て、
そゞろさむく花の夢をとつぎてんはべし。

花づゝうゝ、ゝ花色色　日　だハどの湯ゝ、花多細流ゝの花流のゝ
ゝゝ、ゝて、ハ、ゝ花色色ゝゝ、ゝゝでハ、さハ、ゝ、ゝ、ゝ

うりいろうきとハ美ろをいろうりていまし。ほぞとゑがてくし。
む称をおさへるる　六十八乃ゑ　或物ハ。ゆふこをおしこ老る胸ハ。ゑ
きものをとゝふ下んとゝとゝるよろし。指きの袖も紙足。
ぎふぞゑてくやをかゝぬ　日　むゆハゑくとゝるぐらけて。ぐふぞゑ。いてり
ゑハ美ろの下のゑと。冊ろ地ゑろいふし。
ぐりぐふゑるねど　六十九ゑ　河海ハ。六帖　ゑしさのかぎりぐふゑるゑく
とゝるり。今美ろ社。世ゑを通し。結ふゑハ。字治の姫ろの。ゑしさ乃。
限ぶゑて。今ハゑゑくねど形くハ。今中ろ社ゑきぐ。ゑしてかくハ形げう
ぐゝき。把を。かく中ろの法きぐ。涼く歌くも。姫ろのゑしさ
の。ゑゑゝ法ぐゑきよわ社ゑぞゑし。

みゑしゑ社ゑ　日　孟津の流。よろしきやゑふ笑ゆを。ゆ。かの法
のぶくなゑバ。みそぎ川ぶぐゑふべきぐ。みゑし川ゑといゑハ指
ゑをぐ社ゑやわゑん。ゑせぐゑまんゑのゑハ姫ろへんの法きゑく
ゑる。ゑ姫ろのゑゑいゑゑきゑ。ゑひやらゑゑのゑゑふし。
細流ゑぐふ。佛のそゑハ。をきゑゑゑしゑゑゑゑハ。ゑをぐゑとゑふハ。
佛のそゑりハ。形ふべきゑゑいぐゑきゑゑゑん。
ふくゑもゑゑゑ　日　ゑふ人の形を。ゑふゑゑゑ。彫刻せゑゑ社。ゑろ
ゑふての仏。河海ゑゑ引出ゑゑ。ゑゑ。
花ゆゑゑせゑゑゑふゑ　六十二のひゑ　世ゑ。古袖法ゑゑゑる形ゑべし。
ゑゑゑれふふぐゑ形ゑ結ゑゑ　六十二社ゑ　形ゑゑハ。ゑぐめ社ゑぐハ。仏ハ

むつびそりんくそひしらぐと。今八百里ふおもえるくやうふ好う仕てとし。
人のかいふもつうべえ　六十五のひら　人のくつてんはべし。人とハ陸舟ゑ
をいふ。さ人のさゑの。ゑぐかいのざうくわもつうべえし。も中ゑの
ゑるやうゑハつうで。妙ゑふ仙ぎハのえし。
いくかしこ生どまして　ゑ　本丁をへぐつゑハかしこ名れぐ。いくく老
ていとおそろしに形ふあわしゑる身ふ結ぶバ。ゑふて。ゑんハまして
かしこ生どバづまくくておんとよしし。
中ごろをみりさへう　七十二のひら　こ生ハ陸奥ふ五しほどゑる形
ゑべし。上ゑ。岩陸ふなりて後ゑおくゑる。ゑまぢし。とつ生バし。
ゑいふがゑとよわ　ゑ　或おふ中ゑの女房ふけゑつうわ。ゑとゑるべし。

かくほおゑせゑなく　ゑ　なの下ふんを落きゑし。ちんとし。
こくふゑぐ　七十二のひら　細流のごくゑ形べし。下ふ句ゑの何ふおかしき
ゑとくゑくつう生バ蔦ゑ中の。一種の名形るべし。こゑも秘蔵。
ゑやどり本くう　ゑ　神名。むくやどわし。取くいふゑとふよわくきこ名。
ほふ。一生ゑよりぞ後ゑくゑふゑしとつうハさくふより形きゑし。
ゑほふいでぬう　七十五のひら　中ゑをくゑくゑるし。
うつろひをぐ　ゑ　細流ふ。葉ゑさくわ形るしとつうハをぐ。ゑ何ふ
名ゑをぐこうゑゑ生べくゑ法ふもしるが可。
びをゑゑをくへ生ハ　七十六のひら　けて下ふ。古ハをぐ生てきんをくいふき
をゑちてんはべし。

家せうふとりてはバ　六十七のゑ　結業ふ。敬法うて。を供ぐ。きし。といへ
ゑがごゝ。他光ふ。も多く。ひる。河をを。狭少し。とハいふ。ゑ。ぞや。
こゝ。ふ。ふ。ゑ。まゑ。ゑ。ぞ。なゝ。ハ。ゑ。ハ　七十八のゑ　こゝ。ゑ。ハ。丹。ゑ。のま
しまゑ方をいふし。　傍ふ。こ。ゑ。ぞ。ぞ。二条院。ゑ。ん。ゑ。ゑ。ハ。ゑ。ぞ。ゑ。
ゑ。ゑ。二条院。ゑ。ゑ。ふ。ゑ。ハ。ゑ。ゑ。ゑ。ふ。ゑ。上。ゑ。ゑ。ゑ。
やぞて。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。　月　蓋。ゑ。二条院。ゑ。まゑ。ゑ。ゑ。ふ。ゑ。し。も。白。ゑ。
丹。ゑ。の。ゑ。方。ふ。ゑ。まゑ。ぞ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
ゑん殿をゆづりまゑ。　八十三のゑ　寝殿をバ皆のことゞ女二ゑへゆ
づゝんと。母ゑゑの。ゑへゞと。ゑてハゝゞを。ゑ。ゑて。寝殿の西
をゑて。母ゑをバ。ゑの寝殿の西の。西おもての方へうつゝせゑりて。ゞ

住給ふ方。女二ゑのおもてをとゞめ。ゑと定先ゑふし。ゑれバ西おもてゑ
うつゝ給ふ。母ゑの。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
きし。とゑ。ゑ。ハ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
浄福寺堂ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
の間ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
てゑ。
ゑ。
を。西おもてへうつゝ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。
て。ゑ。
ゑ。

○ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。ゑ。

上、夕暮ゐの泪、ゲ下ハ地の泪なるさうひるもバし。

おろ〳〵まゝ殿　八十九のひら　殿の字、ろの〻〻測べし。おぐ〻くハらむへらべ、平

ユハ、候字まて、ろのゝもを。

例乃れあり　九十のひら　さ紀ふも、らくふやゞり結ひまれバ今ゝ〻じめさ

永和ゝもけらゞ、例乃れるゆ結ハ、ぢ結んゝいふし、上文ゝ。

そゞ色もこふるんゝゝいひ、下に、ゲ二月ふなん、そつをまゝでめゝよ

つふゝゝゝゝゝゝ。

又ゆゝくなりつゝ　九十五のひら　二ゝびのを結ゝびいく変もく、のそ

きゝんゝふし、つゝといひ、ゝよりゝくいつふ、きゝゝゝゝゝ。

此殿のれゝくふもゝ　九十六のひら　ゲせゝゝをゝハ、弁の花が、蓄ゐふ新而

しゝるんゝゝ結ゝへゝるんゝゝあせゝゝをし、下に、ゐゝやゝゝ出て、浮そ

ゐゞき結ひてゞゝゝゝ、ゝ、ゝ。ゞもゞ、ゐて、ゐゝゝゝゝ。

ゐかゝゐ結ゝゝ　九十九のひら　ゐもゝふ、ゐきふ、ゐゝをゝゝ結ゐハ、部の結

ゐゝゝ恍ゐゝふゐりてゐゝべし、ゝて、ゐもゝゝゐし。

東屋北

ゐふ人ゞ、ゐハ　六ひら　ゐふ人ゝを、父をいふ。孝陰がゐれハ、母のを結ゝ

ゞ、父ゝ具、ゐゝゝし。

ゐゝゝゐゐ結ゐ、ゐ結ゐ　七のひら　ゐゐ結ゐハ、ゐゐ結ゐゝいゝんゞゞ。

ゐゐゐゐゐし　同　ゐゞゞひゆせゝゝいゝんゞゞ。　傍位ゐゞゝし。

ゐゐ同らひゝ　同　ゝべゝ、ゲ泪ハ、ゐゝゐへ、ゐゝやゝゝゝし、ゲ下に、ゐと

[illegible]

[illegible]

[illegible]

きよらゝふかひしわ　六三のひゝ　或抄ふ白云ふ中云のね意しるし。
かむのきゝはうとうわ　六四のひゝ　一本ふかのきゝはうとうよし。そも
よろしかるべし。唐陰ち成かんのきゝといふちごくおぼ
ぬるびしるゝ　六五はゝ。ゐの語しけ敷つゆふおわし。
えをわうびをわふるゝバ行成　同　指ふかるをとハさそもつるをし。
といつるふても笑ゆ。又まそもつるゝをとえそもよろし。結ゐども
けわるハ指き河ふて。ちゝ稀でそつるゐ形どふ敷のあとと。一つ河
のちゝゝきし。きゝとを以てゐるべきし。
うれしあはえゝ　六七はゝ　みちのゝはるべし。うれそひの。といつふ
もうしきゝ。ゐ法のるハ決うはくゝ山のうしゝいへゐバうれはなゝ

べゝも。まが法奥をいつるふてうろし。
はうゝハふをいひをまで　六九のゝ　善ゐ乃。今年を。あうしとのゝ
をんを。廿二ゐのはうゝさざかふつまで。おわやをふをで名つるゐ
をふをのゝるハぬ。月とこし。
いゝうゐとれやう形るえゝ　七一のゝ　やう形るゐて河切て。善ゐのうづ
ゝはるし。うれきやう形る世ハ。ゐの法ふりうゝのをし。
佛ハまゝし法ひゐと　七二乃ゝ　まゝゝ法とハ。まゐるゐ成のゝゐへ
をしいふをし。そゝゝごゝいふをそゝごをゝいふ日ど。
なきゐをそゝふて。　七三乃ひゝ　ゐ法をゐをれをゝおがさバさやうゐ
なきゐをバゝをどして。ゐどふ意法へといつるゐて。引ゐは下白のをし。

おぞき人にて　六八乃ひ〜　拾きふいて。

右近がいひつる事ゝきるに　月　上の右近が詞ゝ。まゝおかるもよ

ゆゝで。又ひとしをゝきふまめわて。ゆゝいつる。浮舟ゝの后ゝ

ふよつて。弱ゝいふ。女房ゝのゝ居る所ゝて。ふ詞ゝ。わゝび。

大夫をゝめゝいまゝ。ん〜　四十九ひ〜　ゝで今ゝ。ん。旬を切てんゝ。べし。系

ゝつるをふゝ。ゝけゝ使のゝ。ゝ。ゝへ。ゝる。を。て。ゝふし。おのゝ。ゝ。ゝ。系

を。て。大夫ゝ。で今ゝ事を引。ゝ。ん。ゝ。ゝつゝふし。　弄花か。中文

大夫も。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ゝ〜ゝとゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。ゝ。

ふもふことをひやるく　同　中君ハ、すこしよわり浮舟君の、すをバ、ゐぐるく
おぐをふ、此白玉のすを、薫君のおぐさんこそ、いとゆ〳〵しくおぐをそ、
中君の君ひもふすれ、又をひしるく人といふてふて、人を浮舟君こ、
かもゆ〳〵しびふこゝろる　八月十四のひ〳〵　こゝて句を切て、ふとろふいとゆ〳〵
くゝといふへうをてゝるべし。　湖月本にハ下ふさそぶてそといふ詞
をゝ、そもゝ、ふとろふといふへうをてゝるべし。
いつゝちの作るむやう形る　八月十七の夕〳〵　後を説、後るべし。
ふるぐ〳〵かゝび　八月十九のひ〳〵　君〳〵ふるぐ、ふて、君〳〵ふきハ、君わるく人をく
ゆ、ふ、ふ、ゝ、ふ、
行すいひめるぞ　こゝ〳〵　八月二十のひ〳〵　今かゆの句よとしるを、あゝハ、行

すをうよゝつ〳〵、ゝうぐ〳〵ふきてハ、行じゝ、ゐひかゝる波ぐ、さそぐ
ふいぐ、ふ、ゝ、ふ、ふをよゝてや永ゝ。
ふ　ふをゆひ〳〵ふ〳〵　同　まよハぬを、萩ゝてハ、みぐゝぬをゝ、よゝ、ゝ、ハ、
浮舟ふ、何のゐ細ゐ、ふきふとゝいふ。
今ゝを〳〵　八月十三のひ〳〵　舟君の人ふ浮舟君をバ、後ゐふ、ふ、ゝ
ゝ、ゝ、ゝ、ゐひ、ゐふ八月のゐ、ゐ、ゝ、ゐひをゝんゐれぐ、薫君乃君を
ゐ、ゐふ女二宮を、又一ゐ、ゐの君形〳〵ぬをいて、今ゝを〳〵といふを、
ゐ、ゝ形り、又下の文ゝを、ゝるべし。
舟君〳〵ゐ川やゝ　八月十四のひ〳〵　ゝをゝきハ、ゝて、ゝ〳〵、後ゐ、ゝて、
ゝて〳〵考ゐふ、いかゝ川やゝとゝをゝんを、ゝを、ゝ〳〵、ゐ、ゝ、ゝ、

と誤るなるべし。いふやうにまんぞとそぐぬ泪し。女の
まくさていむげかなしぬるを注ぐもハいみしき法(レヒゴト)流し。
なかくしたるまどもを　日　例の寄る紫式部が早下野なる。まことふ此
方はかくまやうふんなるほどもハいふぞや
みげうやをかしふ出めそね　卒六の段　古々集の詞くさ花ちくさ
まううぶも人のんうたやをぬといふ事と日格のてふをハ
みて。ぐうかしこふ出給へうといふまし。
ちきほどふてそ　五十七の段　てそ切る法し。ちたかどふてそ法
もといあとちり。
いがしめうん　日　めうめハ。姥を。老使ひ。めを引ていてる。老る女

乃ゆ。なる。此西法のてい法。ゆゑて人の様をあわく老を。伊勢
ゆうといひうつるまし。なるまし。なるべし。
ぬるびうる　五十八の段　ぬるびるるといふて。伊の男がきふ。
いふべきふわうび。さもバこもハざるを。しるしるる。法なるなるべし。れ
方乃志好中ふ。ぬるびざるとえうてし。
かの歌うてそ　六十四段　業平が家のるすし。けれふつうる者の但されバ。
うやまひて歌といいつり。けれ法毋ぬ毋ふ。ちが家ふわり。
きくもきくぬなのわをして
ゑつゆくをいふ。
ふもぎぬきぬ法　日　きてそんぬるすし。ぬ法法ぬふや。

かゝることもあるべきなりてハなり　こゝにて　ハいまゞで字法へるもいゞ
こへるも。舟ふねのゐねなぬそろし。されど上の舟が汨ふごゝゝハえ系
らゞといつるも字法へることハ。ゝゝざれだし。又下ふちゝ紀わどふやと思へ
ゞ。といつるゝ思ふべし。かしことハ今ゆゝ取くいふ言葉。いづことハ
のゝゐねゞるし。

新日新ゝ　日　仕法ゝよわてゐもバ上の引へゞてゝもバのゞ。ゞ。の
誤ふや。又仕ゝを也。ゝを拙ゐれだ。日新のゝゝ。ゝ。れだといつう
おゝてハゝゝ　六十四のひゝ　細流のゞゝ。ゞゝいふ流ゝ。
うちまゞゞてゞ　六十五のゝ　まゞゞとゝるふゞ。ゝをべきゝろし。

浮舟巻

のゞをさるゝゝるけん　四のひゝ　浮舟ゝふ。自ゐけるすの出ある。下がまへふつふし。
ゝゝゝいゝゐなきやゝふも　日　或物ふ。女二ゐ文。浮舟ふてしゝいつる。物
べゝ。ゝゝゝといつる。言ゐんのゝへふ。ゝ。ゝ。ゝなり。物つるゐゝ
いふゝ。ゝゝゝといつるふゝゝゝゝだ。
也て物づゝひ物つる。仲　五のひゝ　うをゝわゝるゐの。ゝ情をいづこふみるふう
ゝ。ゝゝよう物ゝるをいふゐや。
けるゝゝゝふも　六乃ゝ　ゐづゝへゝる人の体への。みるゐふ。ゐ。ゐのるふ
ゐて。ゐ人のゝへを。ゝゝゝゝといつる。
ゐまゞゆゝねゝ　八のひゝ　指きけゞゝ。ゝて上の汨ふ。ゝゝゝゝきゝ人
る枝ゝとつる。枝を上ゝ。ふゝふつをゝるゝゝて。わゝしゐるゐゝ

杖のすゑなどするし。扨二句ハいまゝ年へぬ杖ハ行ぎゝとゝいふこゝ
ろを。杖(てゞ)揷をこゝろん〳〵ふふまゞ守りぬゝといひ。杖を下ゐ杖ッ杖ッ所こゝ
ろ。物とゝへゝいるし。さて杖ッといふこゝ。ふゝハ何をまつゝとも。
ゆしふきげめくなきぞも。上ゝまゞ守りぬゝといへゝふりけ合せて。そ
の年書ゝんこゝ杖ッと。ゆゆゝるこゝ。ゆゝうけゝゝろ
ゝすし。さて杖の年書(ふり)んゝ時を中ハ即ち代ハ孫ん第えとまつ
ゝ年。從へふゝハゝるし。ふゝきぼぞもゝ流年。本末ゝゝゝ
ぞ。又まゝとゝふゝゝも。ゆしぐゝ。
いづゝ人ゝわハゝ　十九ゝ　いづゝゝとハ。人ゝわハゆゝ年ゝ年ゝを。ゝる人ゝ
ゞ。いづゝいづゝゝゞゆゝ年ゝるぞ。まんゝるゝハなゝゝとゝふゝこゝ。

ゝんのどゝふゝゝ　十ゝのひゝ　白ゝの。父ゝ母ゝ兄ゝ姉ゝの名ゝ名ゝ名ゝ名ゝひ
ゝろ。ゝ中ゝ母ゝ姉ゝんみゞゝ。ゝゝもゝき年ゞゝ。名ゝゞ。今ゝ姉ゝ名ゝひハ
ゝゝゝまゞきゝふ。ゝ時。ゝかゝゝゝる乳母ゝゞのなゝゝゝ。ゝんゝのどゝふ
孫んゞゝ。名ゝひゝ。ゝんゝ。今ハ妻ゝ年ゝゝと中ゝ。一ゝ。ゝも今ゝ。祖
孫んゞゝて。のどゝ年ゝるゝ人ゝゝゝ

四月のつゆいとど　十七日　こゝハ琵琶湖の西ふ近付居る所ふ
いひあバ　もゝやまゝとん　しかづくてのこまハぬし
いとくゝいふひもゝべき　十八日　さゝ〳〵ハさゝべきやうもゝべきふといふ
ゝゝし　おゝハんづよかるべきをゝしといつるハ　何うゝ　ぶづり
又ゝ　ゆゝ　紀ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ　日　和ふゝべきやうゝ　ゝ　ゝ　ゝ
なきゝゝし　ゝゝきゝゝ　ゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　ゝ
ゝゝゝ　ゝ　ゝ　ゝ　

[illegible]白文へハ仮名をて中文の作せるを仮名をハ仮の白文へ
ナせるよりかて左の大原もといふなりいとかりきといふまでそのの
中文のハ仮名をハ仮名ふむつうせ給てといふときハ人ふ[illegible]せ給
えぬうくハ左大臣のの[illegible]ひ仮名を学せのひて[illegible]のるまふハ仮のご
とくなるべきことにいふうわハ左右の仮とハ申すなれバ
[illegible]ハ仮名ばかりなるをといふまで左右の仮名なるを見べし
[illegible]ばかりふ仮どのなるふとうなどいふ侍ら[illegible]てハ中文の歌
ふのことふハ仮名の場をまて文をのをざしがし
きそうけ人 [illegible]ふるきことし一ふふ[illegible]きんそうけ人とも
そうおそ[illegible]ふそうごとさんいそせあふ[illegible]けるみづうう

むじ[illegible]ふといふ[illegible]
そうけ侍ら 日 そうけ[illegible]けるかがみのうへのすがたバいふ[illegible]
差別しる仮也
ぶいそ[illegible]せ給ひ学 日 ぶふとハ上の中文のいとなるようの侍
ふ人[illegible]せ給ハ仮名ハ[illegible]ハ[illegible]
まちどをかるとがおそうをとも[illegible] 日 白文の学ひふふ[illegible]ふ書
[illegible]の[illegible]む時侍毎[illegible]の侍をふふ[illegible]
こうをばそうそして侍毎[illegible]ん[illegible]侍[illegible]
[illegible]いとうくふふ[illegible]
[illegible]侍[illegible]

なほ八別ものしていふしてそうぐむべきなり。

ちぐろかるすも　上七のひら　今白玉の黒髪のすがのうちふをおもふ

かちぐろごろふしてのうちまふ中黒ぬけ汐し。にいろ〳〵ものが可。

まくふかたしし〳〵　日　新もも〳〵黒髪。玉宮ふつしく宮ふすかりて。

黒いつぐあがをべきぞとし。上ふ中黒のうぬ黒髪のすがそぐろごろのく

まくるふ。もしちぐろごろふ八かりで。玉宮ふ〳〵といふをあて。まくふとハの

ときまふし。

まえやうかるを　上六のひら　今白玉のの〳〵ふすきぬ。おそうなりぬ。まえ

やうかるといつかりくおがをし。

ちぐろかる人をるべうて　日　黒髪八やうぬちるべあどちのふべきものろハ。

思ひもかまはぬぐりしかもて。ちぐろうる人といふし。

かりやなりやをる　日　こもを中黒のをづくおがせる玉ふ注せ

らもしるいつぐ。中黒のんを。〳〵おがをを。上ふ八とバ。ろハ中黒の

んふも何ものいつぐ。ありやなりやといふ何も中黒のんをていつぐし。

まもバこもハ白玉の何ををを中黒の黒髪ふをもるをを。結ぶ

をるるすハ玉しうかりしう。中ふ吟めぬうちハ。ををんも

ちづくをし。まも白玉の何ふても。又をひ中黒の何をも。ちづく

のトふ。吟注の為るかるべし。ろろふ補ぐ。〳〵をづく〳〵ぬのく

まふぐふ。何ものく〳〵ぬどをべきをし。なのまくをハ地の何へうる

場なをて。文をのをぐ。

きのふのあがつる時さを　日　こゝハなやましくといふより。はなみの組うて。
こゝ時どやうふ。昨日のあがつる時さを。ましめへとバとづくまし。
えどゝとどつといひまづ　十九のひ　えどゝとどちまへといひまづゝも。何
やわ時るよといふまし。
ちよ時ちる　日　なぜこの人へハ。はの和ふうりるといふし。ひ学ゝハ。
えどゝとどつといふゝいふり。
夕つゝまちまへ　廿のひ　えゝく絵へておつせ。時まれで。まづ浮舟
えゝ方へおつまべきる時ふさハわゝで。まゞ佛ゑどをゞ。行ゝと
こゝて。久方ふ時りて。浮舟ゑの方へ。ゑせハ。書ゑのさゑ。時句ゑ。ハこと
ゝ時くて。いまゝまゞ。ふのゞやう時ほどをえをる。ゑざるし。

ゑゝまゝ。ゝで。時ゝる人ゝまゝ　廿のひ　ゑひゝるとハ。浮舟ゑふのゝ。浮く
人の年る時ゝ。飯の人ゝをバ。ゑひまゝ。髪のゝるべゝ。おゞまゝといふし。
湖月抄流。浮舟ふゑひ人むとの。ゑひ。といるも。まゝまべゝ。まゝハ。
年ゞゝる。ゝ人ゝを。ゑひまゝ。ゝ人の。浮舟ゑの方へゝるし。
ゝりきゝせゝゝゝ　日　ゝゝんハ。ゑゝんの。浮ゝ。
いゝ。浮ゝまゝねべゝ。ゑバ　日　此下ふ。浮舟ゝる時べし。
月ゞ。ゝ。ゝよ時ゝ。　日　まゝぐハ。ゞゝえおきゝる。時も。此ゑ乃
やゝふ。抱ゝる。ゝきゝも時わゝふ。ゑゝハゝ。ふハゝゝゝわて。
抱ゝ。ゝ。時ゝハ。月ゞゝ。ゝゝゞわゝ。ゝふ。抱の人をゝゑ人ゝる人もまき
ゝて。移びやゝゝゝふ。旬ゑのゝふゝきて。抱ゝふてハゝゝゞ。

蓋のあがるなり。

おのづからはじき出す　三の巻　うまきまでハ蓋の間、下ハ地ゆゑ間

うふ、塀うきハ、ゆゑ。

蓋のかぶせ方　六乃巻　蓋のかぶせ、とゆるかよろし。蓋

の口ぐるりふて、蓋ハぐるり張ふ張りて、うり張りむをおりやすふ

あがるなり。

さもうるうきハ本ち　七の巻　いろ人此法ふよそづしき描乃古本

のまて、そふよりて、描のふ法ふいるゆ、ゆゑ、ばけきハ本ふいるハ、

こ描の本ゆゑ、ゆゑ、ゆゑとなべてハ描りハ、大き形る岩のまねてといふ

ぐりゆゑ本ハきゆゑ、なきあ形ゆゑハ描ふハ、ゆゑ、行ふまれ

うきハ形る本ゆゑ、いるふ、ふ、ふるべし。

いゆゑ、ゆゑ形ゆゑ　日　うきいる本ゆゑ、ゆゑ形ゆゑ、いるゆゑハ、次の

ふゆゑ、対へゆゑ、ん形べし。ん原き人の蓋ふゆゑ、べて、蓋本ち情ふき地ふる

を、ゆゑ形ゆゑ、ふいるし、ゆゑ形ゆゑ、情も形きけ本ゆゑ、ふ、ふ年を絶なべき

ふゆゑ、ゆゑ形ゆゑ、ゆゑ、ゆゑ、

[illegible] 中宮でぞと、意見へも、白文へも、一の
ふきよりでぬ中元なる分なりといふ。なる所ふ、白文の、け羽をとぐ給し。
ふきせ給ひ、[illegible]ひ、[illegible]ひ、[illegible]

ゆかきをもしうく　はなぞのゝ

とづくさし。さて。やふ。ぼさゞやといふを。ゆ。ハ。ぼへもなく。きえう
ゐる。ゆ。ゆ。ゆ

しくやるし。

さそふあらばとハ思ふ　日　浦ゐ石のムかし白玉を思ひ出でがてらハ

あもどる。さりて白玉のさそひあふ方へゆくもとハ思ハぬしけ人乃

ムまべてけでうし。されバこそ思ひ出でて身をわが笑とハ一つも。

地乃ま地ど来やあらんと　四十七ぢ　とり　衍るべし。

いつ行るにうちぞと思へど　日　思へどハ思へどを侵当て舟の浦舟ふ

うふるべし。まてかくいひくらふ。ふ。ゆ　臨妊ふてもつらうとふ

ふるふ。乳母ゐどゞ。ムし信も月のさりて来やうやういつる時ハ母の

ムにねるふ思ふべしと。浦舟ふのかくいくらゐ。ゐづをし。思へどまて

ゆかくいくらまバとふ。ゐづゆ行ば。よく味ふべし。

えのうへ　ゆどのやうふ　思八のゑ　ふもゞけ下ふ。ゆどのそしゞ落る

時るべし。婦ふも笑ふかいくまバ中ふの白玉のゆ方ゆ行くまやう

ふ。蓋ふの北方ゆ。中ふ。中ふ。ゐ。ゆ。ゆ。ゆ

うたがはしとおぼしめすべきようぶかなれ　平九のひら　蓋忠の深意なるをし。
ぶやうぐもん　平三のひら　伊海ふ政宮し。右政衣は被宮なるなし。とうり。
人りうりうハを好ふな　平七のひら　白文の深意ふ毋ひのふを。ちうねよと。蓋
忠を。人のうらぬべし。まやうふ意を。人ようつをやうなるもの忠ふ
なといふまを好べし。
えがごとまをうたんもうう　白　えがごとくハこれをうたうとよりの表へるをうり
かくうで。ものをぐふうぬをといふ。蓋忠の作らり。彼ら書をとうる
をうりまをかくうで。他すをいひく。ちすまをもうたやしくいでれ
ばといふや。
うないいう　平八のひら　こまりうの忠ぐ泊し。

一うとくふかぶくはぐをてよ　平九のひら　蓋忠ふれ白文ふをいで
とへうりうと。一方ふ忠ひまぐをてをへし。
ぶごうはちまぐど　六はひら　不道　無道ねどいふ徒いで。もハ武道
ふもうたんう。伊海ふハ。をうう不調とをうとよりかるべきう。
かうをぐ　白　ぷハ。氣の深なるべし。
いうやを迫ハうてをかくてをう　白　右迫ぐいふをハ深毋ふ蓋忠りよ
ぷをれふを。白文ふよりをれふうと。いづるふもうを。事をくをうを世をれハ
んうををれふといふし。傍深ふ白文へをうり。白ふをれふうぐをとをへ
氣をまぐう。白ふをれうぐるにをうたぐ。事をれをれをもうをれをうをうし。
まをえふひをうまぐき　六はのひら　まをハ又をうり。

しもへぞかすくて　日不堪し。不孝共行ば。
いざらげかり　六十七ぬ之ゝ　孝きぬ。ゴ。ふ。老のあいぎときと行るも
ゴ。いづくふうゝ　六十九の之ゝ　此ゴ。之ハ。ゝ。ぬしれぞと。ゝ。ふ行ゝ
の。ゝ。ゝ。ぬ。ぬ。ぬ。ぬ。ゝ。ゝ。ゝ

おく生ることをやゞて、枝のうくゝとなるふ字いひ〻〻る詞をもていふ。
さる例今は伝ふるもあるも、みな成べく地へこゞめて、流布するを、測ふ
あつゝといひつゝ、なきとるる成、膳が法ぶまとといふ歌。

かゞまるふの花

れんぎゝふ結るべき　七の巻　山下ふ、そて、ゆゝハとゝ、ぎこゑべゝ。
るいやくをかゝ結ふ　みの巻　こゝハ乳母がいふ詞れど、古理法
ふ行ることゝ、なるべゝ。中ゝふ結法ゞと、ゆゝ乳母が法ふいゝ。
かゝへおそ、ろ人ゝ　十四の巻　先生方成いふ、下人のかゝ、ゝかゝ行る
ハゞどゝ、といふ、ゝ結、考へ合せべゝ。
さる人のおゝ、おそ、せどゝ　十二の巻　この文、注のおゝ、ふもゆゆれども。

まゝゝゝといひ、又さゞ先て美を〻〻といふ、又とふ何ゞを見へば、さる
人のおん〻おそ、せどハ、美ゝの方ふおゝ、おそ、せどふて、ゆのぶゝもあゞ
さめハ美ゝのふ、ゆゝぶ加ふ、ゆゝがゝ〻と白髪のあゞまん、ふて、これハ白
髪の結ひ結りんゝとといふふもかゝんゝ、ふ美ゝの結ひかりんゝと
いひゝ、白髪も結ひきんの髪ふて、髪ゝゝといふ、さて法ふ又さゞ先
て髪ゝといふ、又とハ、改先ていふ詞ふて、又美ゝも、ゆゝふ白髪とさゞ
先て、結ひふゝといふ、じゝといふし。
ぶなきかゞゝ　月　ぶゝとハ、上の方ふ、ちきゝぶふ、ゝれゆがゝんと
ゝかゝ法ゝきて、いるか。
法ゝあゞ、まるゞかゝ　十二の巻　かゞゝあてハ、ゝてハ、ゝひゝるまふ、ゝて

とつまとし。海ふかくつきてとゝふ住吉のだうをとゝふかぞ。

ゝてゝつる人〳〵とつまとおきく　十六のひ〳〵　つまおきの下ふ河ゝゝる所べし。

ゝとの二字ゝゝるふて。住吉おきゝく也。又つまおきの上ふなどゝなどいふゝ

ゝゝる也。

ゝめおぐふ　十六のひ〳〵　ゝゝゝ住ハいゝゝゝ。ゝで人を

ゝやまひ。才を罪ト云。かゝいふゝつのゝゝる也。

やむゝおく〳〵ゝゝきゝゝぶゝ　月　永一人を祈ゝんを祈きふやゝ。銀

ゝきゝゝゝつゝぐゝ。ゝゝ也ゝ〳〵ゝぢふゝゝゝ。ゝゝ。

ゝとゝゝゝふゝゝゝ

をかすゝぐさんかハ糸をも怪と結んが、ゞゝ引きわどゝ蓋の
わゝゝハ、ゝて引べきゝゝぞとし。
ゝひ出るといゝゝ　六の巻　仮の人ゝふゝ有ゝし。
ゝゝゝゝ仕ん者ゝと　六一の巻　仕の字いゝで。
いゝぞゝいませ給ハぬゝと　同　下ゝるかゝ、ゝいゝで、上をいゝぞゝと切てよゝ
で、下ゝかゝ、ゝゝゝて、ゝゝゝ、狩上ゝゝつゝきて、下のかゝ、ゝ、ゝゝゝ穂ゝる。
毎ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ　六三の巻　をハ、ゝを深ゝゝるべし。
ゝひ、ゝへゝるふゝゝ仕ゝゝ　六六ゝゝ　ゝへゝ塔ゝて、ゝゝひゝゝゝぬゝ
いゝゝゝし。
ゝひてゝゝゝゝゝゝゝ　六八の巻　いゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

といふものをきべし。上ふ屋さかくうわもちてうこ狂いふひきする波。
きをれぐこ〜おぢをといひ下ふまを人をきこ〜人うわハちと肝わと
おぢをふなんきるなどいて波ふ屋し。
あつうこ絞ちる氣こ〜　曰　表と裏のことけわ。表ハ薯ちの淫舟ちのる波
淫〜歌き絞ふけれを。氣ちきぬハけうぢ人をふきわて。けけを
とハ必ひまこきれども。救こ〜ぬ身肝るふふその行をを思ふちて。
今までこぶ〜ひまこ〜こるこもせで。を絞ゆるといひて。裏ちきハ氣し。
薯ちの人ぢ〜ちけ。おこれること波。えちわことハ淫舟ちふかこうわハせぬ
まの波。薯ちハ淫舟ちをの〜ふ必ひまこ〜。氣をバさ〜と思ひあハゆる。
怪ち〜を思ぢと。氣ち救こ〜ぬ身肝ちバ〜。身ちこぢ肝ちぬふ必ひ

きちて。今までこ〜こ〜ちとゆちまで。を肝ちとし。ふふちのびあるてとけ
氣を。必ハけ裏ちきをて。ゆ肝ちし。絞き絞ちこぢ〜〜。
かへ〜こ〜バ　曰　後撰集ちふかるけ。人をこぢ〜ゆこ〜ほやのこをと
ちる氣。氣波淫舟ちふかへ〜こ〜バ。さ〜とけんをこぢき絞けぢとし。
ふ淫ゆなこ〜と。こ　曰　かをこ〜ちと人をおこをて。ふ乃ゆ肝きる波。多く
ふて。うきを氣身ちこ〜。人のふちこ肝るわぢ肝絞きハせぬものを。まてさ
をとけ〜ぬそこの。けこ絞をちるといちる〜ハうけがこ〜とが色と
氣し。まて裏に苦へ〜こ〜ハ。氣ハ淫舟をさまで淫くハ思ハぬれこ。
人こふちこ〜氣〜ふどの。いみ〜きを絞をハせぬものを淫舟をの〜ふこ
〜ふやこふいひて。かこ〜こ〜ハ。ふ乃を肝きるよ〜し。ほぢと。絞きや

えもるとゝりる。何乃いきうひふゝぬゞ乃。

けよ給こび　日　をべゝ今は云の給ふかゝうゞき給しとゝふゝ。雅俗

みゝうゝ〜といひ。給ふ。礼をいふ。礼ふゆゝ給ぐいふ礼を。雅俗ふハ。

よろゝび〜いつり。こゝとゝきゝふて。ゑをおらわて。そぶゝひる礼り。小

寺おゞ高へ。主より給ふし。そゝらふよろこびとゝふよりて。ほぐも。ゑ

のゝとを侍ま〜社ゝう。よろこびゝ。けを給ゝ。ゝもし。そぶゝひるよろ

こびゝて。ゑけゝとみゝかゝりゝぬとゝり。

人ゞ〜とやむゝとゝ給きふ　四七の日　上より。なゝり〜給いな人ゞ〜とゞきて。

かろゞ〜しかゝぬ。蓋ゝの人ゞ〜をいふし。なゝり〜給ぐゝといゝぞ

して。ぬといつゝゝて。知べし。小寺おゞ人ゞ〜ふゝうゝび。

給ゝふゝて〜　日　ふゝ。ゑてのゝとゝて。市ゝ日の給ゝふて。八講の給ゝし。

けおかゝとハつゝ〜きゝぐゝ給　四十七日　いゝ〜きゝといふより。けおかゝぐ。ゝ。

ゝへゝん　日　堀ゝん。ゑて。ゝ〜かゝび〜いふゝし。

おゞろゝ〜ゝしぬゝて。ゝハ　四十二の日　えゝと見れば。おゞろゝ〜中ゝしと。

中ゝへ中ゝんとゝ。ぬゝいゝゝる手ぬし。侍ほゝゞり。

例の先ゝ給ゝて。ゝぐゝふゝ〜　四十六の日　例のゝうきんゞちゝ。女房の

高へ。ふやゝ給ゝゝぐふハゝ。ゝゞふゝやゝいふし。

ゝゝ〜ハきゝ世ゝ。ぬゝや　四十六の日　或おふ。法ゝ。けゝ。ぬゝ〜かゝて。

蓋ふ。ゝ〜〜ハきゝ世中ゝぬゝん〜ゝといゝゝ。上ふ中ゝ

の日ふ。大ゝ。ゝゝやゝふゝいゝぞゝゝゝゝをゝけゝゝし。ほゝ

ゐ 萩の葉ゝ　四十七のひら　うち地位の強ゝ　萩をゞ　ちゝ

ゝ　ゝ　ゝ　

ゑまさやうなるかきねゞ　西宮のひく　一説ふ意の方はすしといふやう
し上のをゝ和へしうくはうはしすしけ方は紙あまり紙をきゝろく
いつもゝ意をやうなるハうハ俗ふ口ぎてうゝなるといあがめし
なるうくはみべのはうしらをてそ　日　結ふ永一人ゑゞとかゝ中さんとゝはに
ゑハあゝゞゞうゞなべてたるはうへをゝせるふてそたりといつもゝさかゝ
らとハさかゝゞうゞてゝ和とりひわつふをつふみべのとハ女子ゑ意ふつきてい
へゝ。
又紙てもかのはゝ和をゞはうゝ　口　上ふうはゝ矢が河ふゝむつまゝくゝふべきゆゑ
なきゝをゝ中くをゞゞはくゝゆゑゞ。和をゝゞはうはいつをゝうをて。をてを
和ををゞうハ和べきゝのうるゆゑうゝれゞ。今ゝ女房ゝをうは。和をゞゝしてかく

を結ふをゝ。ゑゝをてをゝゞ結ふゑある時節なるんをゝ。かのをといひを
ゝをといつふゝんをはゝべゝ。かのをハ矢がいひくゝをゝをていひをゝをわをハ。
今此時をゝゝしていつもゝ和ゝゞ和をふゑある時節はゝべきふ。ゑかゝてゑ
ゑハゝうをきをゝ。をゝて。西ゝゝまくゝせんをゝかくのゝゑゑゝ。和をふゞ
きゑをハかくくふ男和ゞのまゝるふをんをて。ゝうをくへゝゝゝ業ゝふふ
をかゝて。ゑ西くゝゑゝふゝうなゝて。をゝゝを結をんをのゝゑゑゝ。
ゝくなべくゝかくくのゝゝうゝ　平西をゝ　矢が和をゞゝもゞゞんふのゝをてゝ
和ゝ河ゝゝいくくをくゝゝゝ業ゝふのんふゝくゝ和ゞてけ女房をハみゑ
かくゝけゞくくゝふと和きをゝんをゝ。ゝひゝふてをゝくゝれゝ。
なゝかゝけやくくけをゝゞやをゝ　日　まゞ男ふ女のゑゞいつひきゝをゝをハゝち

まうせてハ取てせねことし。万葉集巻四乃下段までハ。夫と恋む男好こそ
き。女の名のりハせざるなり。女のなを男ふ。ひきうをハ。即ち答りと
ゆゑをふなり。しかし。此絵巻のつくりなどハ。さまでハ。りっぱなるものとも。
往古のんなへのこころにて。男ふ女の名ばきうもるハ。ずづハ恥べきすあて
ゑ。しかし。今侍事ハ。申ねがをとりせ。ハ白玉を色好とて。んやをくこと
つるれまれば。蓋こ玉ハ。白玉のことをふ。ちをくなびをるし。
此侍ゆりはを　曰　或ハ。白玉と。好色のすふつきてハ。孫ときすのをを
とし。といてよろし。侍位。女一玉の方ざ女とうるハ。ものり。
ぢんすきむつびふ形りゆくたるこのなびえ　孝云ハ　たるこのなびしハ。即ち
んすきむつびと形りゆくるハ。たるこのなびし。ぢんすきむつびとハ好色

のるハ。むつびし。
孫ときまゝがふふ　曰　女一玉のるをふもをとうるハ。ろろ。ときとハ。
ふるべきこのるゝや侍るべき　曰　ことを。女一玉又白玉ばなのるふかをてい
つる侍をみる侍し。も。物ハバ。ばまふべきこのかをやかををべきとてて
いふべるを。侍るべきとふいるでうるうん。されでもで。蓋ろの。遊仙窟ハ。何を
のるるつるゆるをて。又曰ど。蓋ハ。何をて。蓋ゝるのをあて。孫うへをてい
つる何し。玉と孫ときまゝがふしものるなべる。うハ。崔季珪がやうな
孫ハ侍るべきうハるいつふし。況る蓋ろの何を。ハ蓋ふよりて。又その射
の侍をもてしのるなつるし。
ろうりとうて　ろう　ろうりとうて　ろうりとうてるふろろ侍ぬ月ハうちの

[illegible]

[illegible]

[illegible]

ゐやふきうちされど　十七のひら　どハぶの俱し。

ゐ才をなげ〳〵　二三の白ハかう〳〵この世ちがうしまと。

おそぐんがる人なり　日　上文おやいふとつふよりいそぐ〳〵せと

いふまでハ浦舟ふのんを。〳〵ぶいつる文おそぐんるとつふより地よりつふ

文ちふ。その子ふ堺ちふ〳〵ていぐ。

おそぐらえ船ぞう　十三のひら　日さめ人ちの日ぐくハ家〳〵と。けかせ

の四五へ三ちんと。ちふ子ふ妨ぎ〳〵まて。え三より行ぬを。

今日ハ。その志〳〵ふ人〳〵を。ちぶきまて〳〵。三ちり行ると。ほ〳〵ぐつり。そ

ぶきまち〳〵出三〳〵るゐをつ〳〵ぶ。

うちゐゆとがくゐ　十五のひら　〳〵ぐよのつゆめ如の髪のうち。けゐハ。尼の

みまて。よのつゆめ髪ゐハそぐしきゐふ〳〵ているし。

何ゐふ〳〵ん〳〵　十六のひら　ことハ引ゐめ上ゐのまぶり出て。下白めことハ

〳〵ぶ。

人の祖ひをまぶふ〳〵　日　人の祖ひとハ少ゐ尼ゐ何ふ。〳〵ぶ〳〵ぶ人

を祖ちゐ祖ひて〳〵ひつて。おぐ〳〵ゐむるとハ。吹ゐまぶ〳〵て〳〵ぶ〳〵

ふをいふ。ことも中ゐのにぶきひまる。ゐめ祖ふ〳〵ているのこ出て。その

まぶゐ〳〵ていふゐハ。ぶ〳〵ぶ。まて〳〵いるこハ。此中ゐ。尼ゐのむをめふゐ〳〵

出て後。ゐ方をとまぶゐ出ぶ。ゐ出ぶ。ゐのひゐぶ〳〵。まをぶ

浦舟ゐをんて。人をかきて。ゐ祖ゐ中せるゐ。ゆるまぶ。ごまふとひふ

ふて。ゐ〳〵ゐて。ぶぶるし。祖いゐゐるとふゐ。ゆふゐぶ〳〵。

うつ〳〵うちあつてどう〳〵　廿七のゑ〵　ばふといふはうつてといふまでハ。
ほゝ舟のまゑを。花ゑの。ふつるんうて。うちあつてどといふハ地の引きれバ。うつく
しくの下のくぼハどを。ほゝるかるべし。ゆゝざれバ。文ゑのゑど。
うちつまんあつてう〳〵　廿八のひ〵　今まで行乃孫もなくて。ゑど此ゑた
ど。ゆゝて。ほゝ舟ゑんふ。うちつまふんをとゝて。ゑんまもといふも。
あく〳〵ふ日　異事し。
ゑ行ゑ〳〵　廿九のゑ〵　きべゑ行ゑ〳〵とハ。他のゑを出て。他出（アダシレヒト）他（アダシレニアダシレ）
人ゑどいふゑどひて。行ゑ〳〵　ゑどハ。他所（アダシレヒトコ）の野といふこと。また此ゑ
ふゑゑとへゑゑとハ氣かゝぬ他人（アダシレヒト）かゝびくゑゑし。
ゑ半月出ゑう〳〵　卅のゑ〵　花ゑの。まつちの山のゑといつるを。待といつるゑと

足なゝて半月出ゑうとハよゑゑし。荻原といつるも古ゑふよりゑ
ゑ行ゑ行ゑ。ゑに。ゑ。狂ゑ〳〵ゑなへし。
中〳〵んづゑ〳〵ふ　卅二のひ〵　古ゑふ。ゑゑ。ゑゑ。ゑゑ

いまゝでとちりみゝんゝゝゝ

て、その場をきはいなど。

狩みがりなどいとしのびまとえる狩ふ　五月廿七日　上ふなろうくもとろるなどき人さへなる狩をなどといつふりのうとりてとるべし。もべうく此相伝をもうのうち。んをは三までハ。ふいなし。

はうきれんな狩ど　五十二の巻　此下ふうくそとつふ流乃ゑくが為しる

狩るべし。本はまくふてハ。文うのもど。

ふくくらもそのほどれるをバいひさつ　五月乃巻　くくくもはは下。めしハ

るをバの下ふ河あちしるなるべし。

かく狩りふくれを狩と作る狩り　日　什河ん狩ど。紫式部。うりもづくの法

るべし。も。偽笑しる狩くバ。狩と作るとう笑作くし。狩どてもをべ是。

いくもづくく狩しおがくるる　五月廿九日　えう狩き狩りおがくうくと

狩る。おと狩り狩る作身をもし。偽狩のいつをもづくくなるがもし。おと

うり狩る身とハ。字作ふて。えつをしる時のもねを思て。芋河えう狩き狩ふお

がくうりるも。おとうりくも。思るも。さて偽毎ふハ。もの狩の氣身のもねを河をづ

くくおがをも。　狩ふがもも。

山伏をかく氣日ふぞうく　日　山伏を。ひりをむ有ふ。今日はやくふ。ふく風

の考はいとんがをき時ぞ。狩をはうるくうつるも。ひりをもねなんを。ひ中

の風のんがをきるをバもくざる狩。ひぶくハといふてふをハも。狩をべ

是。ふぶくをのをりど。ふぞのぞ。もどふ狩をど。も。狩のをはうバ。

ひぶくをうふぞくてをべ是。

ちくちよぶ物る人をゝ　六十七のひゝ　湖月抄説よろし。浮舟のうちゝ
名わりゝふ對へゝ。くちくちよげ物る人とハいふゝし。
よの法ゝ世ゝまるゝ　六十九のひゝ　浮舟ゝのいまゝ尼ゝ物ゝでよの法
孫乃ゝ母ゝ　御ハ。中將ふ對面しゝふゝハおゝゝ。ゝゝ
もありつゝ。ゝゝ。今ハ尼ふ物りゝ。ゝ身ゝれゝ悔ゝ。ゝゝ
ゝゝ法ゝ。ゝゝゝ。ゝゝ。ゝゝ。

ゑまバ又対面せんハ共に泉はなどゝ形あるがくいひ[illegible]浮ふし。末の共
といひ。黄昏る泉といふ。上文ふやがてうせゆ〳〵人〳〵思ひすてをや
こ形んとゝいふ。ふりてゝ[illegible]べし。但ゞと告いふ〳〵きゑがてくし。但
し花ふ。伊勢冊ゑは。よみ人ふ入ゑる。陽神のそふ〳〵ひ弱
つゝ[illegible]。そゑ[illegible]ゑ。ゑ[illegible]ゑ。ゑ[illegible]ゑ。

を、又七の色ふかく芳野、竹ゝそ、爰ゝ所々をうつふもゝてこ
〜柏を見ひ〜見へゞ、竹ゝ爰ゝ所ゝ吉野川の白乃名所し懷風藻
ふ、吉田連宜（カ）従（ヒ）駕（セル）吉野宮詩ふ、今日夢淵と、遺響千年
流とゝ、ゝ下ゝ淵字ハ写誤ゝて、こゝ〜ゝかの爰のゝぐを、詩ゝ
ゝふ、夢淵とハ作ゝる、こゝ〜ゝ所詩をゝてんもバ、ゝ〜ゝよ
き所ゝて、人の遊後ゝ〜ゝ所ゝて、かの爰のゝゝわゝうき樹と
よゝゝハ、竹爰ゝゝぐを、爰の後ゝとゝいひて、そゝふゝこゝせゝ〜樹ゝ
ふべ〜、さて、かの爰ゝ三の旬ハ、ゝぐうち後〜といゝん料の、譬のゝと
ゝ、ゝ、そハいふゝ、ゝと、爰ゝゝゝわハ、ゝ乃名所ゝて、爰ゝ、ゝハゝゝふ
なきを、世ゝ中ハとゝうふつきて、業式紙ゝ爰ゝすゝ、ん紙後ゝて、

ゝゝ、ゝとゝゝふ爰ゝゝゝわゝ、ゝうゝいづゝふゝゝ、ゝ、爰ゝふつき
〜ゝハ、ゝぐ爰ゝゝゝし、後ゝ、ゝ爰ゝ後ゝ乃ゝきゝ〜ゝとのゝう
ちゝゝ、ゝかゝて、ゝいひ、狩衣、柏後ゝふゝ、ゝ、ゝ〜ゝ爰ゝゝゝわゝ〜ゝうき
ゝ〜、御教ゝん乃ゝゝゝゝゝゝて、ゝよゝゝゝゝゝゝゝ、爰ゝゝゝ、ゝ、ゝて
此ゝの名ゝ、ゝゝゝきゝふゝゝゝゝゝゝゝ、ゝ柏後ゝ乃ゝゝて
ふゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ、ゝ〜ゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝゝ

みたてまる世をばいとぐえんやうよ。まことふのこころあわれてえたて
ぐさえなる夏のぐぐ〜ふぐ有きる。さて〜志う此和河をべて夏乃
ぐぐ〜と云ふまハんはのまべきこと〜ぐかし。そハ物ゑ和おぐとりハ。
例のおぐぐ〜志〜佛ぶぐぐと。又もろ〜ゑ荘周ぐ云わぐを引
出ぐ〜。此世乃ゑ物〜者きこと。爰ゑ〜ぐ物ゑおとろりを示
きり。といひまとこれども。まることあるゑ〜ぐ。こをハ〜ぐ。此和法ふ
出ぐる事ぐをを。みるを夏ぐといふことあてゑ〜ぐを。爰ゑ中和。爰ぐ
をを〜へるゑをゑ〜ぐ〜をや。此事ぐえ。よ〜世ぐハをひまぐ
へぬべし。

らうけ　ゑのゑ　弓ゑのゑ〜。後の事ふ系方をつあゑ。爰より出ぐり。

ふゑぐのふおきゑ〜ときん〜　六のひ〜　玉殿ゑ。日本紀畧ふ萬壽二
年三月廿五日。皇后宮城子崩。四月十四日。皇后宮葬殿玉殿
九月廿四日。前皇后城子改葬。ゑ〜ゑるふゑるふ。葬のゑ和ふ志ど
ら〜穀もゑ系ゑて。殯宮のゑし。ゑて〜ふいつる事ハ。爰和法ふとあ
ゑバ。後の事法ゑ〜ぬ。古物和ふ〜ゑてゑ〜し。ほふ生ゑれゑる事ど
とハみるゑ〜ぬ〜し。
なふぐハを〜むべきゑ〜　日　を〜むべきよ。ひゑ〜孫どハ。次の母へう
かゑて和し。なふぐハ。ふゑきて〜いふへうゑり。
なゑとかんどゑりゑぐゑ〜　八のひ〜　ゑとゑ〜ふゑぐゑ〜てのゑゑふ
和し。

えきぼし　十二のゑ　はるかにかすむふぢし。
ことハ伝るすぞ　十三のゑ　侍ぬハ、所ゑやぢ中ゑを中ゆく佐うりつ
らんと思ひて、みゑ、小ゑ、ゑやまで結ひしとまるゑ、小ゑにハいま
ぶかゑハ来ぬ、みのうろうえぐるて、ことハ行るぞとけやしむ
るり、ていうゑるるうハとゑ、孫ぞと、大ゐ友の伝役ととけるゑ、おぞろ
きるなり。
ことてをつさハゑ、ゑ、うゑるうゑ　月　まきふ侍ぬるりみわりつもぐと。
行るすとさぐうゑるびんゑぐるかわ、神、ゑ友のみ中てとゆっゑる
るハ、ひおとせゑひつるんと思ふし、されどされふる役の来しふ、又
しと来るハ、ぐとのうるゑて、けやしゑ、ぐハいつり。侍ぬるり

ことを、蓋のみなるんとしとけるハ、ぐり。ひよわ侍ぬのけきゑとと
まとけ思バ侍ぬよわ、ゑゑゑるゑきをゑとゑゑんと思るし。
おとぐ、ゑて　十四のゑ　伝海ゑ、悉とけるよろし。みづゑ、ゑわて。
おらぐ、つぐさゑハゆさんのとし。毎事ハけるゑ、ぐ。
ゑ、ゑつぐゑ、おゑ、海をとゑぐと　十七のゑ　ぞもぐいぐ行るぞ。
一本ゑ、おゑ、ゑんぞゑぐと、けるぐ、そをとゑもろし。
侍ぬるり思ひゆゑて　十八のゑ　侍ふ侍ぬふゑんぐとけるとし。
ゑゑぐ、ゑぐかしきふゑん　月　ゑぐ、ゑゑ、ゑむきし人をかくま
で思ふとハ、ゑゑぐ、ゑゑのもどかしく思ふを、まて人ゑふとし。
ゑゑのゑるゑふゑ、　十九のゑ　のぐ、穂ゑ、ぐ、をゑを侍ゑるゑるべし。花

須受能那藏板